

# 「お金の心配なく 学べる社会」を

高教組委員長 竹島久美

就職試験の願書の受け付けが九月五日から始まります。進学の方も推薦入試やA〇入試がどんどん早まり、A〇入試は六月ごろからエントリーが始まっていますし、推薦入試も早いところは八月下旬から受け付けが始まっています。

この原稿を書いているのは八月二十六日で出願準備をしているところなのですが、この土壇場になって進学から就職に変えたり、就職から進学に変えたりする生徒たちも出てきています。私の知る限りではほとんど原因はお金です。自力でなんとかするつもりで進学にしていたけれど、いざとなると家の事情や奨学金の返済のことなどいろいろ考えてあきらめる、反対にあきらめて就職にしていたけれどやっぱり将来やりたい仕事に就くために進学したいなど、これからの人生を前にして揺れて

います。私のついでにいるホーム主任さんはそういう生徒たちと丁寧に向き合っています。しかし、いろいろな条件を考慮するともう決断を促さなければなりません。

就職進学のようなかたちで行く生徒はかなり大変な四年間になることが予想されますし、そうでなくても、アルバイトに追われるのではと思われれる生徒もいます。また、奨学金を借りたら借金をかかえて社会に出ていくことになりま。分野や条件によっては

## 西高校の現状

### 「新中高教育一貫校」

原仁

みなさんは、「西高校」にどんな印象を持っているでしょうか？田んぼだらけ土地の真ん中にできた学校は、土佐道路ができたことで宅地化が進み、今では住宅と商業施設に囲まれています。校舎の外見は変わっていませんが、昨年度までに耐震工事が終わりました。校舎内も以前と変わりは

返済が免除される制度もあるにはありますが、ただでさえ何があるかわからない人生なので、かなりのリスクをかかえこむことになりました。とにかく、この子たちが無事卒業してくれんことを願っています。



ありませんが、授業でタブレット端末を使った調べ学習ができるよう、各教室にモニターが設置され、時代にあった授業ができるようになってきました。昨年度、文科省からスーパーグローバルハイスクール（S-GHS）の指定を受けました。「グローバルリーダーを育成するプログラム」として「アクティブ・ラーニング」を取り入れた、「食を活かした地域創生」をテーマにしたグローバル人材を育成することを目標とした「グローバル探究」という授業が始まりました。

## 「足元からの探求」

英氏などで7カ所の砂浜をご案内した」と公開しています。この中西氏が参議院議員となり、防衛庁との連携が加速化される危険度があります。

## 宿毛湾が狙われる

山下正寿

### 三原村の国有林

三原のヒノタニ山と横山を結ぶ稜線は、国有地があるため飛行場を作る予算が岩国基地拡張の4分の1と安く、わりと平坦な山なので、山を切り開き、4000メートル級の滑走路を作る最適な場所だと言われています。沖縄一リマ海域—岩国を結ぶ飛行場として橋本首相から歴代政権で何度も計画が浮上し、普天間の代替予定候補地です。今、土佐清水市益野の航空自衛隊駐屯地は、三原村の飛行場予定地の真下にあり、リマ海域をレーダーで監視しています。もし利用されれば、環境破壊・騒音公害が予測されます。

### 宿毛湾の軍事利用の狙い

2013年3月宿毛市議会に宿毛湾港「海上自衛隊潜水艦部隊等」誘致についての請願書（代表 宿毛商工会議所会頭 田村 章）が提出され、少差で採択されました。

この請願趣旨には「横須賀・呉・佐世保は、過集中であり被攻撃に脆弱となるので、宿毛へ分散配備をすれば脆弱性をカバーできる」と書かれています。また、宿毛市は2015年2月24日付けで、「重要港湾『宿毛湾港』等の利活用について」という要望書を防衛省に提出しています。

拠点化の要望の影響の現れの1つが、海上自衛隊が実施した宿毛湾の海底調査です。機雷がどのくらい沈むか調べるために泥を採取しました。

市民の知らないうちに大月町を含む宿毛湾の砂浜が工キヤック（上陸用舟艇）訓練の適地調査がすすまられています。中西哲県議がホームページに「私と高知県防衛協会の田村宿毛支部長、海上自衛隊0Bの山本

### 防災のための自衛艦常駐はありえない

東日本大震災のときの海上自衛隊の派遣部隊記録によれば、3月11日に横須賀、呉、佐世保、大湊、舞鶴基地、護衛艦など42隻が被災地に、救援体制を整えて出航し、主に外洋からヘリコプターによる救援をしています。

福島、宮城県などの港湾が深い港は、2日間ほどは津波が何度も復元し、瓦礫で港が埋まり、堤防も海底の砂が掘られて傾き、艦艇が接岸できていません。10~20mの津波が予測されている宿毛湾も艦艇の接岸は困難で、直後の救助は愛媛県経由の四国、中国、九州の陸上自衛隊の救助に頼らなければならないと予測されます。防災のための自衛艦常駐は、拠点化、基地化に向けた口実づくりと言えます。

### 地域産業・漁業を守り、宿毛市の発展を

海上自衛隊のおやしお型潜水艦は長さ82メートル、幅8.9m、深さ10.3m、基準排水量は2750tです。これだけ大きな金属の塊を動かすわけですから、水深の浅いところ、海底に近いところを航行するとスクリーンで海底の泥や砂を巻き上げて進み、濁りが養殖のいけすにながれることとなります。海底にはきびなぎなどたくさん魚の卵を産み付け、様々な生き物が生息して餌となり、海底を自然浄化しています。宿毛湾は魚の「保育園」と言われ稚魚を育てる大切な湾です。軍事利用により、佐世保や呉港のような死んだ海になる危険があります。

潜水艦隊員8~70人の利用よりも、年間150億円の水揚げ高の宿毛湾漁業をさらに発展させ、加工業・販売店・飲食店など漁業に深く関わっている宿毛市民の生活を豊かにするべきです。

報道でご存知かと思いますが、西高校の敷地内に「新中高教育一貫校」（以下、新しい学校）ができることになりました。平成三〇年四月に併設中学校が、平成三三年四月に統合後の併設高等学校がスタートします。新しい学校の校名は、県教委が来月一か月かけて「校名候補」を募集します。今年の秋から中学校舎の建設が始まります。新しい学校では、英語科はグローバル教育科に変わり、科内の国際バカロレアコースでは国際バカロレア（IB）のプログラムが導入されます。西高校はこれから外見と中身が現在進行形で変わり、新しい学校となります。その内容は、現場で働いている私たちでさえすべてを知りません（報道で知ることさえあります）。知っている事でも今は言えないものもあります。新しい事が始まると、聞きなれない英語やカタカナ言葉が飛び交い、理解するのに苦労します。「西高校の現状がこれからは一言では説明できない。」ことを理解してもらえたら、ありがたいです。